



その先の、道へ。北海道
Hokkaido, Expanding Horizons.

明治維新を迎えた新政府は多くの有能な人材を北海道へ派遣し、開拓に全力を注ぐことになります。北海道開拓に尽力した先人たちの熱い想いと軌跡をご紹介します。

2018年(平成30年)、本道が「北海道」と命名されてから150年の節目を迎えました。



北海道国郡図
明治2年(1869年)、北海道という名称が正式に決まってから初めて作られた武四郎による地図。北海道、樺太(現在のサハリン)南部、千島列島が一枚の地図に収められています。



未知は拓ける

創造価値への挑戦、そして未来への扉

「北海道」の名づけ親 「第四部」

まつ うら たけ し ろう 松浦武四郎 (1818-1888)

出身地/三重県松阪市小野江町(旧国名/伊勢国一志郡須川村)



松浦 武四郎

時代が江戸から明治に変わると、6度の蝦夷地調査による詳細な記録と地図を作った武四郎は、当時もつとも蝦夷地に詳しい人物として知られていました。明治政府に開拓使が置かれると、大久保利通の推薦もあつて長官、次官につぐ開拓判官という役職に任命されます。

明治政府の役人を務める

幕末の頃、大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允といった人々も武四郎の家を訪れ、蝦夷地についての情報を得ていました。中でも大久保は武四郎を高く評価していたようで、明治政府が成立すると登用を働きかけ、武四郎は「蝦夷地開拓御用掛」に任じられました。その後開拓使が設置されると、これまでの蝦夷地調査の実績が認められ「開拓判官」に任命されます。明治2年(1869年)、武四郎は「蝦夷地」に変わる新しい名称考える案件に携わり、「北加伊道」などの案を政府に提出、この案をもとに「北海道」と決定されました。

「北海道」に込められた想い

武四郎は政府に蝦夷地に変わる名称として、「日高見道」「北加伊道」「北海道」「海東道」「東北道」「千島道」の6つの案を上申しました。政府はその中から「北加伊道」を採用し、「加伊」を「海」に改め、「北海道」と改称したとされます。武四郎が「北加伊道」と提案した背景には、天塩川を調査した際に地元の長老から聞いた、アイヌ民族を指す古い言葉が

政治の流れと無念の想い

武四郎が目指していた北海道は、アイヌの人々が安心して暮らすことができる大地でした。そのためにアイヌ民族を苦しめていた「場所請負制度」の廃止と商人排除などを強く訴えました。しかし、商人たちも自分たちの利益を守るために、当時の開拓長官に賄賂を贈るなどして抵抗した結果、武四郎の意見は聞き入れられないばかりか疎外され、東京詰めの人となり、北海道へ行くことすらできませんでした。政府の開拓政策は、先住民族であるアイヌの人々が長く暮らしてきた土地や生活・文化を奪い、民族としての尊厳を傷つけていくことにつながっていきます。

武四郎は北海道開拓のあり方に強く反発して開拓使の職をわずか半年で辞任します。この時、長年の功績により国から従五位の位を贈られていましたが、それも返上しました。そこには、政府のアイヌ民族に対する政策への反発とともに、地位や名誉ではなく、アイヌの人々を守るために力を尽くしたが、果たせなかった無念の気持ちが多分にあつたといえます。政治の世界に失望した武四郎が辞職した後に雅号としたのは、皮肉を込めた「馬角齋(ばかくさい)」でした。

武四郎が教えてくれること

武四郎の生家は伊勢参宮街道沿いにあり、子どもの頃から多くの旅人を見て刺激を受けて育ちました。そして、若い頃から全国各地を歩き、人に出会い文化に触れて見聞を広めることで、様々な考え方や価値観を受け入れる人物に成長します。アイヌ文化を理解できたのは、そうした体験とおおして広い心を持った人間であつたからです。江戸時代末期とはいえ、

「カイ」とあるという話に由来します。この「カイ」という言葉に「熱田大神宮縁起」という書物に出てくる「東の方に住む人々は、自分たちの国のことを加伊と言う」とあることを指摘し、「加伊」の字をあてました。「北加伊道」という名前には、北のアイヌ民族が暮らす広い大地であることを表し、先住の民であるアイヌの人々を尊重する想いが込められています。武四郎はまた、北海道は広大なため郡をいくつかまとめた国名(現在の支庁名に相当)と、郡名に関する案をまとめ政府へ提出します。地名はその土地の歴史であり、文化であるという想いからアイヌ語地名を尊重して取り組みました。「北海道の名づけ親」と言われる由縁がここにあります。



北海道名撰定上申書
武四郎は政府に蝦夷地に変わる名称として6つの案を上申しました。「北加伊道」の「カイ」はアイヌ民族の大地であることを表しています。

武士を頂点とする社会では、すべての人々が平等ではなく、人権という考え方は芽生えていない時代。武四郎はアイヌのすばらしい文化や生き生きとした暮らしの姿を伝え、アイヌ民族を正しく理解することを求め、権力を持つ人々の行為が正しいかどうかを問いかけています。150年を経た今、武四郎の異なる文化や価値観を理解して受け入れる姿勢は、現在の私たちにおいてもとても大切なことだと教えてくれます。

「開拓神社」

開拓70周年にあたり北海道開拓に偉大な功績のあつた功労者の御霊をお祀りし、永久に尊崇申し上げたいという当時の北海道長官石黒英彦の提唱によつて、昭和13年(1938年)8月15日に北海道神宮内に松浦武四郎をはじめ36柱の御霊が鎮座になりました。現在37柱。その後昭和63年(1988年)、御鎮座50周年を記念して現在の拝殿が御造営されました。



開拓神社

・札幌市中央区宮ヶ丘474番地
・TEL.011-611-0261
(北海道神宮社務所)



松浦武四郎記念館

松浦武四郎の功績を讀え、松浦家で代々大切に保管されていた武四郎ゆかりの資料を展示しています。
・三重県松阪市小野江町383番地
・TEL.0598-56-6847

《松浦武四郎 三重県関連展示施設》

■協力:北海道神宮、「開拓の群像」刊行委員会、三重県松浦武四郎記念館 ■写真・図録:松浦武四郎記念館所蔵



150年ほど前まで原野だった札幌は、人口190万人を超える大都市に発展しました。この住みやすく豊かな都市に栄えた背景として、明治2年に開拓判官として赴任した佐賀出身・島義勇の功績は大きく、彼の都市構想が現在の札幌の礎となつています。北海道開拓への熱い想いがより多くの人々に届くよう願っています。

コミックス
好評発売中!!
各書店にて
お求めください。

「島義勇伝」製作委員会 著/エアーダイブ 定価:本体900円+税 ISBN:978-4-907436-02-5 C0921

発行 | Dybooks(ダイブックス) 〒064-0808 札幌市中央区南8条西4丁目422番地5 グランドパークビル3F TEL:011-533-3216 FAX:011-533-3215 エアーダイブから発信する! 本サイト <http://www.dybooks.jp/>

北海道・札幌の礎を築いた、
開拓判官「島義勇」の物語
北海道庁 **佐賀県庁**
タイアップ作品!! **推奨図書!!**

◎札幌市役所 ◎北海道学校図書館協会 ◎佐賀市役所
◎佐賀市教育委員会
推薦図書!! **推薦図書!!** **推薦図書!!**

第9回 北海道神宮フォトコンテスト

北海道神宮の周辺は自然の恵みの宝庫です。神宮境内の四季折々の景色や、初宮詣、七五三詣、結婚式などの人々の様子。北海道神宮例祭(札幌まつり)、開拓神社例祭(神輿渡御)、神饌田での行事などの祭事風景など、当神宮に関わる写真を送ってください。

学生部門も
作品募集中

応募部門: ①一般部門(専門学校、大学生含む) ②学生部門(中学生、高校生)

応募締切
平成31年
3月10日(日)
消印有効

賞状・賞金10万円
神宮賞
各部門1名
▶賞状・賞金10万円
(学生部門は図書カード5万円)

賞状・賞金5万円
奨励賞
各部門2名
▶賞状・賞金5万円
(学生部門は図書カード3万円)

賞状・協賛会社賞品
入選
各部門20名
▶賞状・協賛会社賞品

●入賞・入選発表:平成31年4月上旬(北海道神宮ホームページにて)
●入賞・入選作品展:平成31年4月~9月以内 神宮境内予定
主催/北海道神宮 後援/北海道神宮奉賛会 協賛/中西印刷株式会社



北海道神宮

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474
TEL.011-611-0261 FAX.011-611-0264

▶コンテストについての詳細はホームページをご覧ください。
www.hokkaidojingu.or.jp 北海道神宮 検索